

（報告）

ア 令和4年度浜松市優秀教職員表彰について

※教職員課長から資料に基づき説明

（安田委員）表彰式の際に、表彰を受けた教職員が在籍する学校の校長は同席したのか。同席していないならば、今後検討してほしい。また、この表彰を受けたことによるメリットがあれば教えてほしい。

（教職員課長）当日、表彰者以外の参列は無かった。コロナ禍であり、教育センターも密を防ぐために人数を抑えている状況である。校長等の同席については、今後検討させていただく。また表彰を受けたことによるインセンティブについて、教員免許更新制が適用されていた時は1回の更新免除があったが、現在は無くなっている。表彰を受けた教職員が何らかの形で報われるように今後考えていきたい。

（安田委員）コロナ禍により人を多く集めることができないのは仕方がないが、やはり優秀教職員を表彰するにあたっては、もっと手厚い対応をしてほしい。

（田中委員）十分周知していると思うが、学校だより等を用いて、学校でももっと周知をしてほしい。教職員のモチベーションに繋がる上に、保護者としても、教職員表彰を受けた先生がいるということを知り、尊敬の念を持つことができるのではないかと思う。

イ 博物館資料紛失再調査委員報告書について

※文化財課長から資料に基づき説明

（安田委員）報告書の要因だが、これは教育委員会や学校でも当てはまる内容が多いと思う。博物館が反省して今後活かすのは当然だが、それ以外の組織も、この資料を無駄にせず、自分ごととして捉えてほしい。そのため、各学校長に資料を電子データで配付するなどして共有してほしい。また、他者の業務に自由に口出しできない風土があるというのは、学校でもやはり同じことが言えるのではないかと思う。他の教員が良かれと行って行っている業務に対し、なかなか口出しすることはできない。そういったことを、学校も自分ごととして捉えて見直してほしいと考えている。

もう一点、再発防止策として実施予定の資料のトリアージについてだが、恐らく学校でも重要度に応じた備品管理はできていない。一律に整理をしているため、重要度に応じて整理をしていくべきではないか。古いものや使わないものは廃棄して、もっとすっきり管理をしないとイケないと思う。現在学校の備品については、使っている人が管理し、事務職員と一緒に管理状況を確認しているが、教員の業務負担を減らす一つの手立てとして、

例えば校務アシスタントを複数人配置して、備品管理を手掛けてもらうのはどうか。備品を使う教員が元あった場所に戻すことを徹底すれば、そのようなこともできると思う。

(文化財課長) 再調査委員からも、この問題は博物館のみならず庁内全体に共通する問題であり、全体が変わっていかないといけないという意見があった。本件について補足すると、博物館には、備品になっていない資料も膨大に存在する。この管理ができていない状況の中で、例えば重なっている資料や重要度が低い資料については、そのままにしておく資料が増える一方である。そのため、残していかなくてはならない資料を除き、活用が見込めないと判断した資料については、異なる活用の仕方や、思い切って廃棄を検討するなど考え方を変えていきたい。

(鈴木委員) 備品調査報告書や物品検査報告書について、いわゆる虚偽の報告書を書いた人は延べ何人いるのか。

(文化財課長) 対象人数については現在人事課が特定をしているため、この場で報告はできない。少なくとも2017年度からの記録は残っており、そこから2020年度までは、記録上はあるものとして報告している。所在不明であると認識した2011年度から2016年度までも、恐らく同様の対応を取ったと推測される。最終的には、現在人事課を中心に行われている再ヒアリング後に特定されることとなる。

(鈴木委員) 発見された備品については、見つからなかったものが見つかったのか。それとも、誰かがこっそり戻した可能性もあるのか。

(文化財課長) 前者である。再調査委員の中に警察のOBの方がおり、発見時の現場の状況について、外から持ち込まれた可能性は低いことを確認済みである。博物館としては、資料の紛失が発覚後、搜索を尽くしたという報告をしたのにも関わらず、その後資料が発見されたことについて、探し方がずさんであったと厳しく指摘されている。

ウ 博物館の事業について

※文化財課長から資料に基づき説明

質疑応答なし